

すぎなみ大人塾2018 西荻コース パート2 (6回連続講座)
新しい大人、西荻で始めよう
第3回 プロジェクト・チームごとにテーマと提案先を検討する
平成30年11月17日(土) 午後1時30分から4時30分
於 西荻南区民集会所 第1、2集会室
学習支援者：学びの案内人 船尾本

ゲスト講師 西荻案内所 奥秋圭

こんにちは どうぞよろしくお願いいたします。これまでの活動と、昨日、出版した本のこともお話させてください。西荻にお住まいの方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。ほとんどが西荻以外ですね。では、西荻案内所を知らない方も多そうなので説明します。案内所は、2013年ー2016年まで運営しておりました。地図を置いたり、案内をしたりとやっていました。公共のような名前ですが、実際は個人が行っている私設案内所です。『西荻観光手帖』の編集企画や各種イベントを実施しながら、「西荻まち歩きマップ」を2013年から年1回継続して作っています。

12年間、西荻に住んでおります。住み始めたころ、別の方が作っていた「西荻まち歩きマップ」に出会って大変感銘を受け、その方が地図製作を続けられないと聞いて大変驚き、それを受け継いでいます。

ある大学の学生の調査で、西荻の方に「西荻まち歩きマップ」を知っているかを尋ねたところ、多くの方が知ってはいたものの、あまり活用していないとわかりました。でも、西荻に住んでいる人にこそ使って欲しい地図なのです。

『西荻観光手帖』という本を2014年に作りました。これは、西荻窪商店会連合会が発行し、私たちが制作委託を受けて編集企画をしています。全国の商店会が受けることのできる「にぎわい補助金(地域商店街活性化事業)」を活用して何かしてみないかと話を頂きチャレンジしました。初版はあっという間になくなり、増刷して販売しています。

これはもともと、西荻夕市というイベントのお手伝いをしていて、その中のひとつの企画として、西荻の街を案内する観光ツアーをしていたところから話が来たのだと思います。途中でパフォーマンスやハプニングに出会えるツアーです。西荻窪は観光地ではないのですが、それを観光地に見立てたらおもしろいのではないかと、ところからスタートしました。補助金活用の話を頂いた時は、「100人の観光コンシェルジュを育て揃いのブレザーをつくる」というのはどうか、という提案でしたが、そもそも観光地ではないというのが前提でしたし、まして揃いのブレザーをつくるというのは有効な使いみちではないのではという思いが頭をよぎりました。せっかくなら、ちゃんと継続できる企画に補助金を使うべきだと思いました。一般的にこのような助成金事業は、打ち上げ花火のような一発企画物が多いのです。私は、その日1日限りのイベントでのにぎわい創出ではなく、継続してまちに人が来ることが望ましいと思い、そこから『西荻観光手帖』のアイデアを練っていきまし

た。西荻窪は遠方から大型バスで乗り付けて観光をするような場所ではないですよね。どちらかというと、小さなお店をたくさん回るようなこじんまりしたまちです。たとえば西荻に住む人が友人を呼んで近所を案内する。そういう時に参考になるような本になればと考えました。西荻の歴史、見どころ、年間行事のほか、善福寺公園を中心とした自然のことや、この街に暮らした文学者のこと、歴史ある建築などの解説が載っています。この本を見ることで、自分が住む場所により愛着をもって、なじんでいるまちを旅人のようにながめることで新たな視点を得ることができる、そういう本になればと考えました。西荻窪には、たくさん専門家がいます。その人たちから教えていただき、内容を監修・執筆していただきました。文学者の専門家、野鳥の専門家、建築の専門家、イラストのプロなど、西荻窪に住んでいる人たちの力で作り上げました。

2013年11月に、「西荻婚」という企画をしました。地域の公民館「井荻會館」にある40畳の大広間は、かつては結婚式の披露宴で使われたことがあるそうです。このことをいろんな方にお伝えしたところ、実際にやってみたいという方が現れました。そこで、井荻會館での披露宴のほか、西荻窪駅前でお披露目をする計画をたてました。新郎新婦が西荻窪の駅前にやってきたところ、300人ほどの方がお祝いしてくださったのです。披露宴の金屏風は骨董屋さんが貸し出してくれました。準備しはじめの頃は、これはもしかしたらビジネスになるのではとたぬきの皮算用をしていたのですが、終わってみれば多くのボランティア的な協力があってようやく実現できたもので、そうそうできるものではないことがわかりました。しかしこの地域の底力を感じた貴重な機会でした。

「西荻ラバーズフェス」は、南口のキャンドルショップの高橋さんが発案し、それに賛同して動き始めた企画です。彼の最初期の企画書では、入場予想500人となっていました。しかし桃井原っぱ公園でやるとなると5000人規模のイベントになると伝えました。次第に仲間が増え、企画規模も大きくなり、そして杉並区から会場使用許可が降りてついに実現しました。初年度で15000人も来る大きなイベントになりました。

また2016年には「西荻ドブエンナーレ」という、水にまつわるアート企画をしました。これは毎年善福寺公園でやっている「トロールの森」というアートイベントの一環で、いわばアートフェス内アートフェスです。暗渠研究家たちや、善福蛙（善福寺川を里川にカエル会）の人たちと出会い、この2つのグループを両輪に、西荻の水にまつわるもの、善福寺池や善福寺川、暗渠、銭湯、水道水、下水などにスポットを当てた企画で、いろいろなお店を利用してイベントをしたり、街のあちこちに掲示されたQRコードで水にまつわる地域情報が得られるコンテンツなどを作成しました。

2017年には、トロールの森にあわせて、「続・西荻案内所」を実施しました。毎日日替わりでいろいろな方が西荻を案内しました。それぞれ専門領域を持っていて、中にはプロレスラーがいたり、ヴィーガンの人だったり、それぞれの西荻案内をし

ながらイベントを実施、もちろんプロレスもやりました。最終日には「西荻南北歌合戦」ということで、線路の南と北で分かれて歌合戦をしました。この地域にはまだまだ多彩な人がいるということを知りました。今年もぜひやってほしいとの声があがっているのですが、場所がなくて困っています。私もムード歌謡でご当地ソング『西荻の夜』で“デビュー”しました。

今年の10月には商店会のハロウィンイベントのお手伝いをし600人ほどの方がいらっしやいました。同じ商店会で12月から、イルミネーションのフォトコンテストを開催します。「#西荻イルミ」というハッシュタグをつけてSNSに投稿し、コンテストで優秀賞になると商店会から金券がもらえます。

タウンペーパーの『西荻井』は、老舗のタウン誌で、年4回発行されています。もともと西荻案内所を始める前はこの編集に携わっていて、3代目の編集長でした。現在も6代目の編集長ががんばっています。思えばこの活動が西荻案内所の基礎となっているかもしれません。企画、取材、編集デザイン、配布のすべてをやります。この中でもっとも大事なものは、実はいちばん簡単そうな「配布」です。実際にお店に行ってもその雰囲気を見るのです。お客さんで行った時と同じように接してくれる店もあれば、そうでない店もあります。こういうことの蓄積で、頼れる人、聞ける人、協力してくれる人が次第に見えてくるようになりました。

地域活動は、まちに貢献したいという気持ちだけでは続かないのではないのでしょうか。義務になってしまっただけではおもしろくないのです。自分自身が自分の責任において自由にやり、この西荻で、驚き、楽しみたいというのが源泉です。その場で体験したい、見てみたいという気持ちをイベントなどで形にします。もちろん、うそや誇張表現、誹謗中傷、他人の利益を害する行為はしないように注意をはらっています。すべてがうまくいくわけではありません。時には失敗や、嫌な思いをすることもあります。

西荻南口仲通り商店会にピンクの象が、ぶらさがっているのをご存じですか。先代のピンクの象は引退しましたが、この先代の象を調査したことを本にまとめました。もしかして、西荻案内所の活動は、この調査のためにあったのかもしれない、と思うこともあります。先代の象から、新しい象にかわった時にも、多くの方から失望の声があがりました。すぐ捨てられるはずだった先代の竹細工の象を一時保管し、せめて30年もぶらさがっていた象のお別れ会をしようと思いました。そこから私たちの調査が始まりました。まずは作った人を探してみようと辿ってみると、その川崎の竹細工職人さんはすでに亡くなっていました。それでもう1軒杉並区内に唯一残る竹細工店「竹清堂」を訪ねました。すると、この方が象をたくさん作っている方とわかりました。現在の発泡スチロール製の象は3代目で、先日引退した象は2代目なのですが、その前の初代の象の写真を見せたところ、これを作った方と分かったのです。当時、企業の年始飾りや商店の看板、イベントやセレモニーの装飾などの大がかりな竹細工を手がけ、まさに時代のシンボルとなるものを竹細工が担って

いた時代があったのです。現在の竹清堂は、こういった大物作りはほとんど行っておらず、とても繊細な竹工芸を制作しています。

その後、新潟県佐渡市で地域おこしを手がける方がこの象の引き取り手となり、西荻窪駅前でお別れ会の後佐渡に運びました。佐渡島ではイベントのパレードなどで使われています。補修をするために表面の紙をはがしたところ、美しい竹細工があらわれました。佐渡はもともと良質の真竹がとれることから竹細工の産地となっていて、現在も職人さんがいらっしやいます。小木地区の職人さんもこの象を見てたいへんに驚いていました。

「本物は残さないでよかったことは1度もなく、残してよかったか、残せばよかったしかない」これは、アントニン・レーモンド設計による東京女子大学の旧体育館・東寮が解体されると決まった時に、その建築を残す活動をしていた方たちが作った記録集『喪われたレーモンド建築—東京女子大学東寮・体育館』（工作舎刊・東京女子大学レーモンド建築東寮・体育館を活かす会編著）に書かれていた言葉です。ピンクの象の竹細工の姿を見た時、残せてよかったなと心から思いました。

西荻の北銀座通りは、都市計画道路の優先整備路線補助132号線になっていて、道路拡張が予定されています。道が広くなれば電柱が倒れても緊急車両が通れるようになるのですが、道幅が広がると、お店をやっている方の商売にも影響がでます。また駅前には再開発の動きもあり、西荻の風景が変わろうとしています。本当に残さねばならないものはなんなのか、しっかりと考える必要があると思います。他のまちでも、かつての飲み屋街、遊郭があったところも、どんどん再開発され、あちこちであつという間にその面影が消えています。これが本当にいいことなのか。どんどん首をつっこみ、どうなってほしいかを表現することが大切です。ふらりと1人で立ち寄れる飲み屋街って、いいですね。まちにはそれぞれ唯一無二の個性があるはずです。オリジナルであることこそが最大の魅力なのです。今の西荻にはそれがあります。これからも、こういった情報をどんどん伝えていきたいと思っています。

質問

専門家に聞くというのがありますが、どこに専門家がいるかわかりません。専門家に聞く方法もわかりません。コツはあるのでしょうか。

ゲスト講師

たとえば歴史建築の専門家である「杉並たてもの応援団」の人に会うきっかけとなったのは、「広報すぎなみ」で見つけた建築ツアーに参加したのがきっかけです。意外と専門家に会う機会はたくさんあります。ツアーやイベントに飛び込んで、話を聞いてみてください。先方も話したいので、きっとよい関係になると思います。

質問

商店街のお店がなくなっているのを危惧しています。

ゲスト講師

商店主の高齢化もあります。賃貸でお店を続けるのも家賃が高騰していて大変です。貸し出さないで駐車場や家にしてしまうこともあります。そこをお店として貸し出すのは地主の「心意気」がないと、なかなか難しいと思います。

学習支援者

奥秋さんのお話し、面白かったです。この講座は暮らしのサイズアップとか、私をサイズアップすると言っていますが、奥秋さんが素晴らしいのは、この好奇心です。何かをしてみたいとかこうしてみたいとか持っている好奇心がすごい、たくさんありますよね。そんな、サイズアップするためのポイントを企画に活かして欲しいんですね。奥秋さんに一番最初にお会いしてお話を聞いた時に私が思ったのは、やっぱり「西荻井（にしおぎどんぶり）」が奥秋さんの活動の原点なんじゃないか、ということでした。それはやっぱり取材をするっていうことで、さっきどういう専門家がいますかっておっしゃいましたけど、取材に行くんですね、その専門家、こういう人がこういう力を持っている、こういう店はこういうことは知っている、ということが全部わかっているわけですね。だから西荻のことをこれだけ開発できたり、地図が作れたり、っていう風に、僕はそれが力になったんじゃないかと思います。奥秋さんは配る方が大変だとおっしゃっていましたが、本当はその取材をする側が、どうしてこの人に取材をしたいのか、そんな話をどうやって聞くのか、っていうことがすごく大事です。今回プロセスデザインの中でも結構重きを置いているのが、ただ教えるとか、ただやりなさいとか言うんじゃないで、自分の目で、見てみるとか、聞いてみるとか、っていうことを繋いで欲しいな、と思う訳ですね。ここがすごく大事なところだと私は思っています。でそれがですね、ピンクの象に代表されるように、今度は違う地域に飛んでいく。で繋がっていくことが素晴らしいなと思って聞きました。ありがとうございました。

それでは、ここからは、暮らしをサイズアップする、自分をサイズアップする講座です。奥秋さんのお話の内容をヒントにしてぜひ皆さんの活動に活かして下さい。この過程が、サイズアップの意味です。奥秋さんの活動の原点は取材をするということだと考えます。取材を通じて地域のこういう方がこういう力を持っている、こういうことを知っているなどを肌で感じて知っている。ここまで到達した奥秋さんが、西荻の活動を語っているのです。

どうして取材をしたいのか、どうしてやりたいのか。自分の足で探して、全身で聞いて「どうして」を潰して行ってください。テーマを絞って、自分ができることを考えてみてください。相手のデメリットにならないように、自分が関わることにより、地域が良くなることが大事です。

「なんで」「どうしたら」と質問をしてみてください。提案先が困っていることを私たちに伝えてくれたら、具体的な内容を聞き出して、その解決方法を考えてみましょう。相手に聞いてみると、できること、できないことがわかってきます。そこから、本番ですね。自分が楽しく対応できることモットーにしてください。今日は、テーマの仮説を考えてみてください。提案先が見つまっているのなら、最高です。

提案先と、みなさんが複数のメリットを共有できると良いです。なにを実現したいのか、いつ、誰がどのように関わるかを考えてください。やりたいだけでは、先に進みませんから、できることから始めましょう。

最終的には、成果発表をしてもらいます。これが楽しかった、ここがうまくいかなかったなどを、発表していただきます。では、チームごとにわかれて、お話し合いをしてください。

発表

チーム 1

子供の貧困を解決するのではなく、テーマを子どもの楽しめる場所にしました。共働きの子どもは居場所がないそうです。ですから、やって来た子どもが楽しめるような居場所にしていきたいです。食事、理科実験、読み聞かせ、宿題支援をやりたいです。提案先は、杉並区社会福祉協議会です。

チーム 2

テーマは、若者を元気にする事業です。実際にやることは、まだ決まっていません。バンドとお野菜のマルシェを合わせた企画ができたらと。ライブハウスや公的な施設を使っていこうと考えています。若者を集めるだけではなく、プロのミュージシャンのアドバイスをもらえる機会にしたいです。野菜マルシェは、農家さんとつながっているメンバーがいるので、できそうです。

チーム 3

朝活、夜活を行っていきます。テーマとしては、西荻窪の良さを共有するために朝活、夜活をやることです。西荻窪に自宅以外で帰ってこられる場所にしてくれたら。提案先は、まだ決まっていませんので、打ち合わせを重ねます。

チーム 4

本を読むことが好きなのですが、本を読む場所で読者が読書意見を言う場所が少ないと思っています。そこで、自分の好きな本を持ち寄って、好きなことや思い出

を共有できたらと。そこに、西荻らしさをいれていきたいです。場所は、レンタルスペースを探して、貸してくれるように頼んでいきます。定着したら、シャッターでしまっているようなお店でやりたいです。本から、町の活性化につながればと願っています。

チーム5

外国人と日本人を出会わせる機会をつくりたいです。お互いの文化を共有したり、悩みや外国人の視点を聞いていきます。西荻窪を外国人からの視点もいれて、良くしていきたいです。取材先は、東京都国際交流協会です。

チーム6

テーマは、西荻案内所みたいなものを作りたいと考えています。それ以降は、とくに決まっていません。最初は、商店街でやりたいと考えていましたが、バスの案内看板に相乗りしてみることを妄想しています。期間限定でイベントなどで案内をやりたいと思っています。

司会

では、みなさん、ありがとうございました。すばらしいアイデアと熱意を感じました。行動することで、ネットワークも広がりますね。1日だけやってみようというのも良いです。そこから、継続できるかもしれません。地域の魅力を伝えていくことをやってみたら、また繋がりが広がると思います。カンタンにすると、相手にもわかりやすく伝わるはずですから、まずはやってみましょう。共通のことをできるのは楽しいと思います。地域でまとまって、ぜひやってください。お疲れさまでした。